

日本、大きく方針を変えよう！

日本は閣議決定された地球温暖化対策計画で、2050年までに80%削減という長期目標を持っている。先の夏頃に環境省と経済産業省のもとで、2050年に向けた長期戦略の検討が審議会が始まり、今年度中にそれぞれ検討結果をとりまとめる予定だ。ところが、別々に検討した成果が出た後、最終的に政府がどのようなプロセスでどのようにとりまとめ、いつ、国連に提出していくのかは見えない。また、議論の中身も方向性すらも、具体的に詰まっている段階にはない。このままでは、パリ協定の締結だけでなく、長期戦略でも出遅れしまいそうだ。

[1] さあ、日本も中身の議論を加速させ、ビジョンを語り、長期戦略の策定プロセスを加速させよう。もちろん、これは国民全体にかかわることだから、市民参加の下で行うことが大前提だ。そして、もちろん、いつか革新的技術ができて排出が減ったらいいな！という願望ではなく、戦略でなくてはならない。確かな経路と目標引き上げのプロセスを織り込まなければならないのだ。

[2] また、2050年に「エネルギー部門のCO2排出ゼロ」という長期的な視点から現在の状況を見渡せば、今から新しく石炭火力発電所をつくるのが、40～50年以上に渡って莫大なCO2排出を固定化する罪深い所業だということも直ぐに理解できるはずだし、石炭火力による膨大な排出を他で埋め合わせるなどできっこないということも分かるだろう。原発と石炭ベースを守る電力市場改革「貫徹」で再エネを拡大することもできない。

[3] 大きく方針を変え、再エネ100%を入れ込んだ脱炭素長期戦略を作り、来年の大臣演説ではカーボン・ニュートラルをめざす宣言ができるよう、今から準備していこう。

[kiko-members:00290] [【Kiko】 COP22/CMP12/CMA1 通信 No.4 \(2016/11/17\)](#)